安房高等女学校 校舎の落成と私達の覚悟

第５代校長　鴇矢 忠部

校舎が出来ました。私達が永年の間待ちに待った新校舎が出来上がりました。何という嬉しい事でしょう。

顧みればあの恐ろしい大地震で校舎全壊の厄に遭ってから今日まで約七年有余の間、どんなに希望を以て今日を期待して居た事でしょう。或は雨露を凌ぐだけの天幕の中で、或は狭苦しい控所で、或は不完全なバラック校舎で、あらゆる不便不足不自由を忍んで、早く新校舎が新校舎がと口癖の様に申して居たのでした。

所が私達の希望は遂に実現致しました。（中略）明るい気持ちのよい質実堅牢な新校舎、衛生上から見ても教授上から見ても、元のバラック校舎否震災前の校舎に比して、其の便否到底比較にならぬまで面目を一新した新校舎、久しい間のあこがれであった新校舎に入って勉強することの出来た私達は何という幸せなことでしょう。私達の感激は今や高潮に達し、歓喜の情に胸の高鳴るを禁じ得ません。

然し私達は本校第二の維新ともいうべき此の千載一遇の機会に遭遇し、只徒らに歓喜の心に陶酔して居てよいであろうか。否々私達は此際胸に手をあてて大に考え一大決心と覚悟を決めねばなりません。

私は先第一に、私達に今日の喜びを与えてくれた方々に対し十分感謝の意を表したいと思ひます。本校今日の隆昌を来した事は、聖代の恩恵による事は勿論でありますが、財界の極端に不況なる今日、巨万の経費を投じて校地移転校舎新築を決行して下さった県当局及県会議員の各位、陰に陽に之が促進に御尽力下さった北條町を始め郡内の有志及父兄の方々、遡っては本校の創設に尽力して下さった当時の郡当局郡内有志各位、歴代の学校長以下職員諸先生及皆さんの先輩たる卒業生の姉君達の大なる功績を没することは出来ません。之等の方々に対し皆さんと共に衷心から感謝の誠意を捧げませう。

扨て此の感謝の心は直ちに報恩の心となり、上 皇室を始めとし是等多くの恩人に対し十分の御恩返しをするといふことが私達の第二の務であると思ひます。私は過般新校舎への移転の際、「皆さんの覚悟」につき、自治会に諮問しました際、「お掃除を丁寧にして学校を一層奇麗に致しませう」「校舎や校具を傷つけないようにしませう」等いろいろ適切な答申が沢山ありましたが、（中略） 多くの方々の広大なる御恵に対し、お報いする道は沢山ありませうが、学校の実績を向上させ、善美な校風を樹立するといふ事より大きな道はないと思ひます。

（中略）お引越の際ピヤノとか金庫とか皆さんの力では到底運ぶことの出来ない或は少数のものを除く外、何万点といふ一切の校具を全く人手を借らず、先生方と皆さんだけで僅かに二日間に運んでしまった事などは、学校の沿革誌上に特筆すべき美事だと思ひます。其の他学校へ引移ってからもお掃除の力の入れ方が違って参り、清潔整頓の成績が目立ってよくなって来た事、自学自習の良風も従前に比し一段の進境を示し、集合や教室に於ける規律…それは毎年第三学期になりますと兎角乱れ勝になるのですが、本年は一層厳粛味を加えへて来たこと、廊下を走ったり、紙屑をちらかしたりする様な人は殆ど一人も無くなったこと、数へ来れば皆さんが実績の向上、校風の改善につき、どの位努力して居るかといふことが歴々と事実の上に顕はれて居るので、私は衷心から非常に満足に感じ、喜びに堪へないのです。

どうか将来益々その気分を緩めないで学科に訓練に体育に一層立派な成績を挙げ、校舎其他外形の整備に敗けない様に内容を充実させ、今まででも他校に比し決して遜色を見せなかった校風をより一層輝かしい純美なものとし、之によって上 皇室を始め多くの方々に対する報恩の道であるばかりでなく、学校に於て私達が当然為さねばならぬ無上命令としての本務であり、又学校を生かすと共に私達自身を生かすべき最善の道であり、新校舎へ入って最高潮に達した歓喜の心を永遠に生かす所以でもあるのです。努めようではありませんか。

（「校友会雑誌」第 12 号 1931.3）

安房高等女学校 新校舎落成式記事

「校友会雑誌」新築校舎落成記念号

我が校舎が大正12年の大震災に倒壊の厄に遭ひまして以来、久しくバラック校舎の不便を忍んでをりましたが、愈々時は熟し来て、設備の全く充実せられました堅牢なる新校舎が、北條町の東方、広い田野を控へ眺望の好い閑静なる此の下沼の地に、めでたく竣功を見るに至りました。我等生徒の喜びは言ふまでもありません。高く踊る胸をおさへて第2学期の終りに諸先生方御指導の下に引越作業を行ひ、旧校舎の物一切は私たち生徒の手一つで2日間に運ばれてしまひました。第3学期から木の香新しき新築の校舎に、身も心も嬉しさに包まれて、毎日学習にいそしむことが出来ました。

昭和6年3月5日、房南の地には徐ろに春の兆しの動く日、午前11時半より2時間に亘り新築校舎落成の式は挙行せられました。当日の参会者は石田千葉県知事以下来賓 113名、北條町協賛会員148名、生徒父兄355名、同窓会員 158 名の多数に上り、広い新講堂に溢れ出づる盛況でありました。

挙式の次第は、新しき学舎のいや栄ゆべき将来の文華の光彩を約束するが如く、満場感激の静かさの裡に、式典は極めて厳粛に進められて行きました。県土木課長の工事報告、校長先生の式辞、知事の告辞、旧職員総代、卒業生総代の祝辞等は次々に朗読せられ、我等の待望んだ新校舎が如何に苦心経営に後に竣工せられた者であるかを言々句々胸に迫るが如く物語られ、我等幸に此の新校舎に学び得る者の重大なる覚悟を促され励まされて、喜びに高鳴る胸はそぞろに引緊り、一心に傾聴せずにはおられませんでした。

工事概要 千葉県土木課長　東 森蔵

安房高等女学校復旧建築工事成り本日落成式を挙げらるるに当り、工事の概要を述ぶるは光栄とする所なり。

大正12年9月関東大震災の為め倒壊の厄災を蒙りたる本校の復旧は、其の必要を認むる。誠に急なりしと雖も県財政の困難状態は之を容し難き事情あり。一時仮校舎を建て、以て女子教育の継続を計り今日に至れり。

復旧の機熟し新校の敷地を此の地に決定さるるや、昭和5年3月先ず整地工事に着手し、石井永之輔氏請負に依り、同年6月竣功す。面積6,700坪、工費18,600円を要したり。

校舎建築には専ら前轍に鑑み、基礎工事の完全を期し、其の地形は全部杭打ちとし、腰廻を鉄筋混凝土構造とし、木造各要部には筋違或は方杖を使用し、屋根をスレート葺とした る等、堅牢耐震の方法を構し、様式又質実にして復興の意を存し、形態色彩共に更新の意義を備へしむるに努む。本館及主要校舎を二階建、講堂生徒控室其の他附属建物を平家とし、昭和5年3月合資会社大倉組と工事請負契約を締結し、工事に着手し、同年12月完成を見るに至れり。

其の総延坪 1,620 坪、工費 161,300 円に達せり。而して校舎以外の寄宿舎及附属建物其の他の諸設備は未完成にして、目下工事中に属す未完成部分を合するときは、総延坪1,900坪、此の工費合計196,848円なり。本工事着手以来、工事の進捗極めて円滑、比較的短日月を以て能く完成を見るに至りたるは、監督其の宜しきを得たると請負業者の塾誠なる努力に依るは勿論、当地有志各位の絶大なる援助の賜に外ならず、深く感謝の意を表す。

茲に工事の概要を述べて竣功を報告す。

（「校友会雑誌」第12号 1931.3）

新校舎建築へのあしどり　管理棟（木造校舎）保存の経緯（いきさつ）

事務長　小川 晋

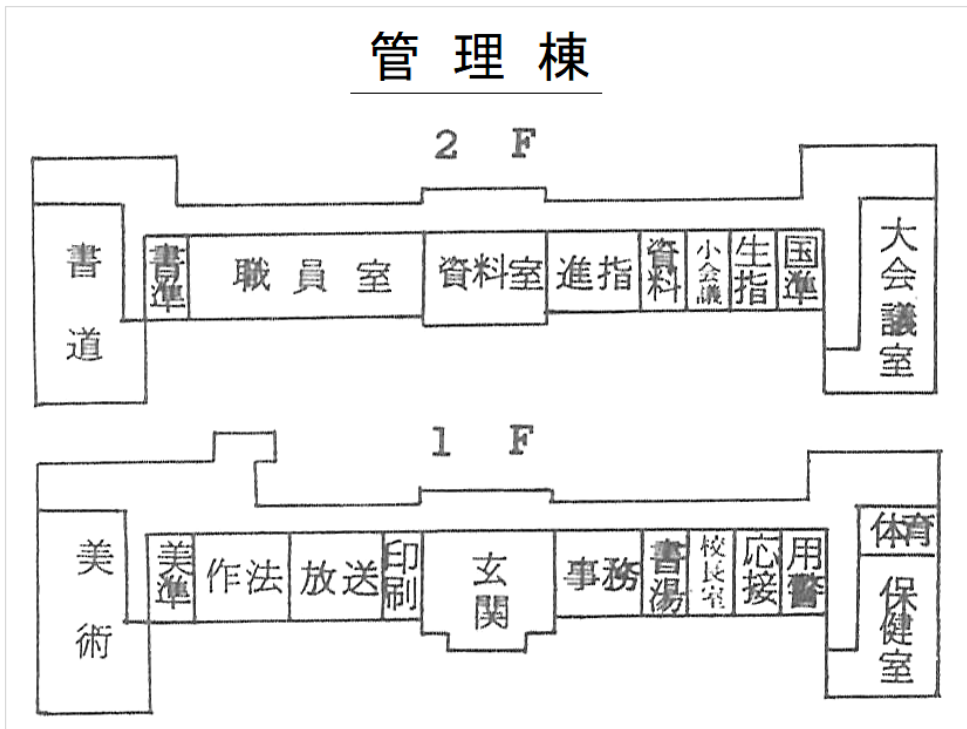
昭和 53 年度学年始めに、当時の丸山校長から、「本年度は校舎改築について期成会と共に促進して行きたい」旨発表があり、6 月に第 1 回期成会役員会を開き、改築について協議会をもった。昭和初期の木造建築校舎は、県内に数少ないため県では補修し残したいという意向があるので、本校として第一校舎を残すかどうか意見を求めたところ「現場の先生方に支障がなければ残してほしい」という意見が出た。6 月下旬に飯田前 PTA 会長ほか 4 名が出県し、県知事・県教育長・財務課長のもとへ改築促進方陳情をした。7 月には、山田同窓会長、飯田 PTA 会長・校長・事務長の 5 名で佐倉高校の記念館（明治の建造物で昭和 50 年に全面改修し保存されている建物）を視察した。

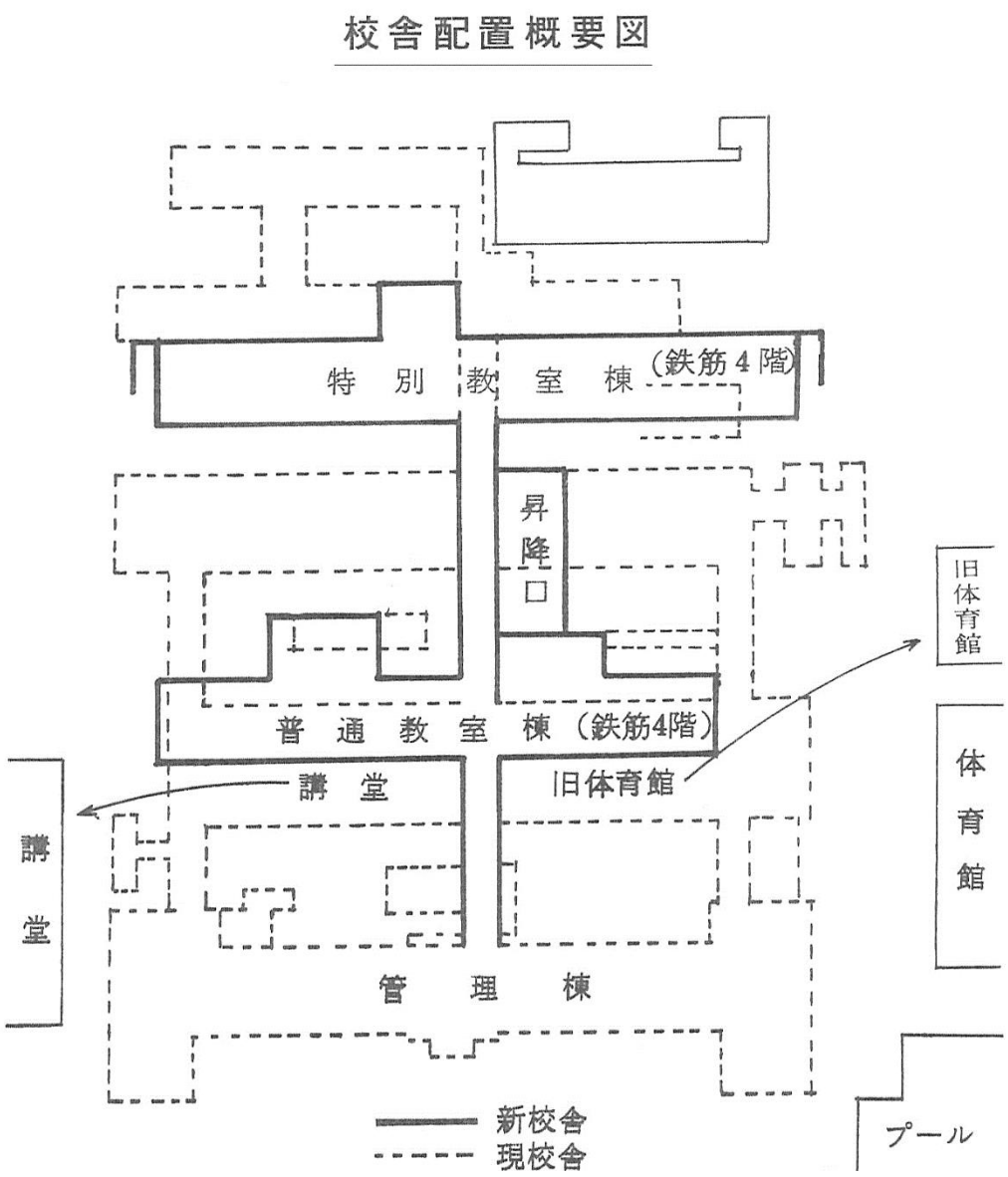
配置図を作成し県教委と折衝

昭和 54 年 4 月前校長丸山先生の後任として、県立検見川高校から中村浩校長が着任した。直ちに、校舎建築委員会が再編成され本格的に取りかかり、校舎の配置・第一校舎の残存について検討を加えながら県教委と折衝を続ける。配置については、現位置に旧寄宿舎・特別教室棟・進路指導室・更衣室など取り壊し、北側から鉄筋 4 階建特別教室棟を曳屋移築しその跡へ鉄筋 4 階建普通教室棟を建築し第一校舎を保存することになる。ただし、老朽度が著しく、補修が無理ということになれば取り壊しするので、この場合のことも考慮した案も作成された。6 月下旬には、県営繕課の設計案も、学校側の要求をとり入れた教室配置図を作成した。6 月 4 日から、業者による校地・校舎・植木の配置に至る詳細測量図が完成された。

7 月 11・12 日には県教育庁財務課黒川主幹ほか 2 名の技師による校舎の現況調査が行なわれた（主に取り壊しされる校舎）。講堂および旧体育館については天井裏から床下まで詳細に調査されたが結果については報告をうけていない。工事についての今後の予想は 1 月頃から旧寄宿舎を取り壊し 2 月中に完了、特別教室棟を建築、完了後特別教室の引越、第二校舎を取り壊しする。同時に講堂・旧体育館の曳屋移築も行なわれ、第 2 期工事として普通教室棟の建築に移るものと思われる。なお、工事費などについては、国庫補助対象事業として申請される予定のため詳細は不明であるが十億円はくだらないだろう。

（PTA 広報「みんなみ」第 1 号 1797.10.1）





安房南高校旧第一校舎（管理棟木造校舎）

千葉県有形文化財に指定された経緯（いきさつ）

第 20 代校長　渡邉 裕

私が南校に着任して、先ず感じたことは前庭の桜花と淡いピンク色の優美な木造校舎と調査のすばらしさでした。木造校舎は左右両翼に突出部を設け、中央で校舎本体から突き出た玄関のある左右対称の校舎で、玄関正面の屋根は尖っていなくて腰折れ風の破風でいかにも女子高校の校舎という印象を受けました。

そして、校舎に入ると廊下がよく掃除されてあり、飴色にピカピカ光っていて暖味があり、やすらぎを感じました。校舎内を回ると二階に昇る階段、手摺、二階の廊下、各室の床板ともよく掃除が行き届いていて皆飴色に光っていました。各室ともスペースが広く落ち着いた感じのする校舎という印象を強く受けました。また二階の作法室の和室からの眺めは校舎全面が四季折々に山茶花、桜、サツキ、秋の紅葉と季節感をよく現して実に良い眺めでした。

母校を訪問してくる高女時代、安房二校時代の方々から、そして最近の卒業生からもこの木造校舎に対する思い出をよく聞きました。この木造校舎が母校愛の源であり、先輩後輩の絆のように思われました。

しかしながらこの淡いピンク色の校舎も昭和 56 年に翌年の創立 75 周年記念式典に備えて塗装し、以来 14 年間も一度も塗装していないのでペンキも剥がれきてワニザメの肌のようになってきました。業者に木造校舎の内外全面塗り替えの概算見積もりをしていただきましたところ約 7 千万円ということでした。

この額を踏まえて県教育委員会に全面塗装の依頼に行きましたが、予算がない、安房南高にだけ 10 年置きに 7 千万円もの支出はできない、一掃して鉄筋で建て替えることを考えてみてはということでした。

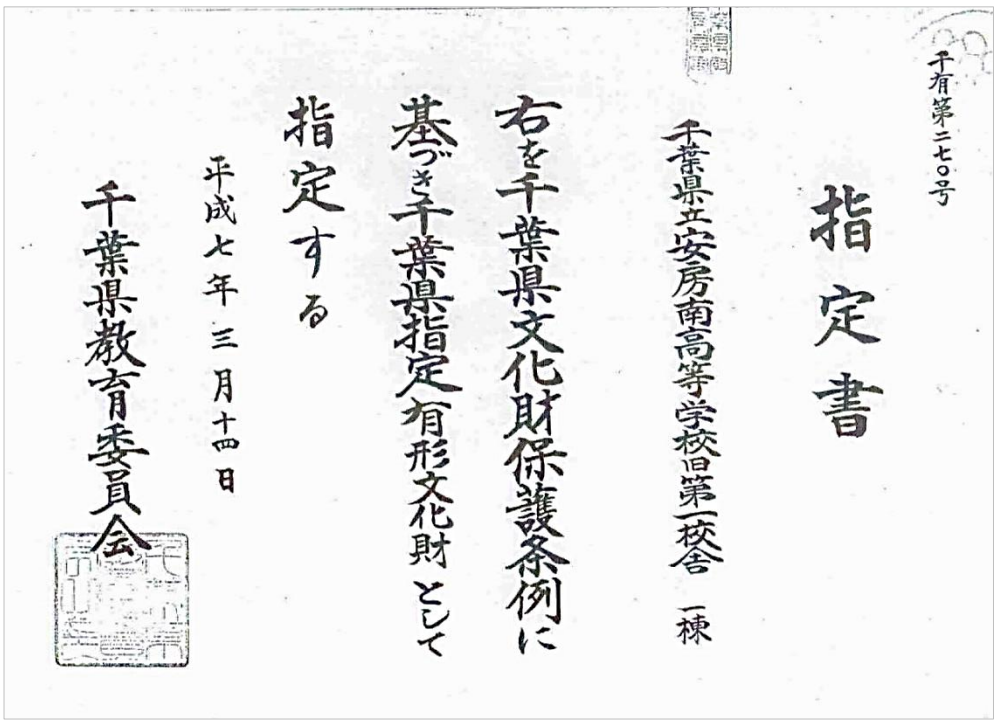
「誠の心で優しく強く」を校訓とし、萬里小路通房の作詞による校歌「朝な夕なに打向かふ…誠の徳を磨けよと、この学び舎はたてられぬ、…楽しく学べ乙女子よ」と儀式的行事に歌い継がれ、また卒業式歌「(全体) 四方の山々霞みつつ花咲く春のかえり来ぬ、(卒業生) 嗚呼この春に巡り逢い…、(在校生) 学びの窓の雪蛍…、(卒業生) さらばよ (在校生) さらば (全体) いざさらば」と歌い継がれて、この木造校舎の学窓を去った卒業生を思うとき、どうしてもこの校舎を壊すわけにはいかない、と堅く心に決めました。

なんとかしなければと思案していた時期に、県下の古い建造物の調査がありました。本校には平成 5 年 10 月 5 日、県文化財保護審議委員の千葉大教授工学博士玉井哲雄先生一行が調査にこられました。

先生方の言では、「昭和初期に館山にこんなに素晴らしい洋館があったことは館山の文化度の高さを現して歴史的価値が高い。しかも耐震構造があり、様式は質実で形状あるいは色彩は簡素にして優美であり、当時の最新技術を使用した建造物である。今もこんなに綺麗に使用しているとは驚きました。生徒が使用している現状の儘で文化財の価値があります」ともおっしゃいました。

私は早速教育庁文化課に行き、この木造校舎の文化財指定の依頼をしてきました。そして文化財審議会の審議を経て本校の木造校舎が千葉県文化財保護条例に基づいて千葉県指定有形文化財に指定された次第です。これからもこの校舎を末永く綺麗に大事に使用して先輩達と同じ思いを寄せてこの学窓を巣立っていただきたい。

（「ひかり野」第 2 号 1997.10.31）


千有第二七〇号

指定書

千葉県立安房南高等学校旧第一校舎　一棟

右を千葉県文化財保護条例に基づき千葉県指定有形文化財として指定する

平成七年三月十四日

千葉県教育委員会